

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23402021

研究課題名(和文) 海外所蔵北朝鮮関連資料の収集・翻訳・刊行調査研究1948～1991

研究課題名(英文) A Research for Collection, Translation and Publishment of the Materials in abroad related to North Korea 1948-1991

研究代表者

森 善宣(MORI, YOSHINOBU)

佐賀大学・文化教育学部・准教授

研究者番号：80270156

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円、(間接経費) 4,050,000円

研究成果の概要(和文)： 北京大学朝鮮半島研究センターとの共同研究の結果、中口東欧諸国に所蔵された朝鮮民主主義人民共和国との外交電文や情勢報告書など1948年から冷戦終焉までの北朝鮮関連資料を膨大に入手した。この資料を8つの資料群に整理、編集し、北京大学翻訳家協会にて邦訳して『北朝鮮関連重要資料集』全3巻に編纂して出版する。

。この資料集に掲載する資料群をテーマ別に示すと、次のとおり。第1巻(53～58年)：朝鮮労働党内の粛清過程+朝鮮戦争後の経済復興、第2巻(56～59年)：第1次5ヵ年経済計画+8月宗派事件・中国人民志願軍撤収・在日朝鮮人帰還事業、第3巻(59～61年)：核開発開始の経緯+4.19政変と北朝鮮の対応。

研究成果の概要(英文)： A massive material about DPRK in China, Russia and some nations of Eastern Europe was collected through the common research with the Centre for Research of Korean Peninsula in Beijing Univ. for 3 years, which include a foreign teleglam, a situation analysis report, and so on from 1948 to the end of the Cold War. These materials would be edited to 8 groups and published in 3 volumes all titled the "Significant Materials related with North Korea" after translation by the Association of Translators in Peking Univesity.

The 8 groups by each theme are shown as the fellows. Vol.1 (1953-58): the Process of Purges in the KWP + the Economical Rehabilitation after the Ceasefire of the Korean War; Vol. 2 (1956-59): the First Economic Plan for 5 years + the August Sectarian Incident / the Withdrawal of CPVA / the Repatriation Project of the Koreans in Japan to North Korea; Vol.3 (1959-61): the Process to start the nuclear exploitation + the 4.19 Political Incident and North Korean Response.

研究分野：社会科学A

科研費の分科・細目：政治学、国際関係論

キーワード： 金日成 朝鮮労働党 8月宗派事件 在日朝鮮人帰還事業 中国人民志願軍 核開発 経済復興 4.19 政変

1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究代表者が北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）の政治と外交を研究する中で、従来の北朝鮮研究が資料不足と共に資料偽造により停滞している点から着想を得た。研究代表者は自著『6月の雷撃：朝鮮戦争と金日成体制の形成』社会評論社、2007年刊行の過程で、この資料問題で大いに苦しんだ。また、韓国の延世大学校教授の朴明林氏の手になる著書の監訳書『戦争と平和：朝鮮半島1950』社会評論社、2009年刊行においても、氏が引用している文献の真偽をめぐり大論争を繰り広げた経験がある。つまり、北朝鮮の政治と外交に関する研究は、依拠する資料そのものにより歴史的な事実関係の確定からして大きく左右されると共に、誤謬をもたらす危険が大きいのである。

2. 研究の目的

本研究は、このような学術的背景から北朝鮮資料の本格的な収集が喫緊に必要な不可欠であるという課題認識で始まった。北朝鮮資料そのものを検討した体系的な研究などは、どこの国にもないし、また有り得べくも無いから、北朝鮮研究のためには資料の偽造のない北朝鮮以外の国々や地域に所蔵されている北朝鮮資料を収集して調査、分析する外に手がない。北朝鮮と外交関係のある国々や地域に所蔵されている資料に当たって、北朝鮮の内部事情や外交政策について知ることが、北朝鮮の発する偽造資料を吟味するよりも遙かに北朝鮮の実像へ迫る早道である。

幸い、冷戦の終焉後に公開され始めた旧共産圏の資料は、中国共産党の資料を含め今や幅広く収集できるし、これらを基に新しい史実を明かす論文を公刊できる。さらに、これら資料を他の言語に翻訳して刊行するのにも、さして大きな障害はない。本研究は、北朝鮮が1949年10月に外交関係を結んだ隣国の中国資料から始めて、ロシアや東欧諸国の資料へと研究対象を拡大していく。この中で本研究は、単に資料収集という海外での研究活動に止まらず、収集資料の翻訳と刊行も、その目的のひとつとした。学術的な研究資料を独り占めにせず、これを公刊することで「世界の隠者」たる北朝鮮の実情を世界に知らしめる。それが北朝鮮に対する正しい認識の共有に寄与し、6者協議など多国間の協議枠組みにおいて日本が主導する政策形成に大きな助けとなり、さらに日本の大学が世界の北朝鮮研究を学術的に先導する役割を果たすのも、本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、各年度に中国、ロシア、東欧諸国にある資料の収集と整理を行う中、北京大学歴史学系に組織されている韓半島研究中心（朝鮮半島研究センター、以下「センタ

ー」と略称）で収集した資料を日中韓の各言語に翻訳、編集する作業を同時進行させた。このうち編集については研究代表者と北京大学翻訳家協会（以下「協会」と略称）代表である金東吉氏が共同で行い、翻訳に関しては金東吉氏の監督の下で年間を通じて協会に所属する複数の担当者が従事した。

既にセンターで所蔵している北朝鮮関連資料も数多いところから、優先順位を付けて収集を進行させた。そして、夏季ならびに冬季の休暇期間を利用して研究代表者と金東吉氏が中国、ロシア、東欧諸国を役割分担して訪問、関連する研究機関や資料保管所などで新しい資料の調査と収集を実施する方法を取った。新資料は整理されて翻訳対象の中に組み込まれ、最終的な編集段階で刊行資料の中に位置を見出すことになった。

4. 研究成果

(1) 2011年度の研究実績としては、主に収集において重要な成果と展望を得ると共に、翻訳・刊行についても2012年度からの明確な見通しを立てることが出来た。

まず、2011年度は中口東欧諸国の北朝鮮関連資料を大量に収集できた。この中にはウッドロー・ウィルソン国際研究センター主催の「国際冷戦史研究（CWIHP）」に含まれる資料も少なからず入っているものの、北朝鮮内部での金日成による粛清と個人崇拜の進展過程を如実に示す外交記録、朝鮮停戦後の経済復興をめぐる困難な状況、ソ連の「平和共存」政策と北朝鮮の巧妙な対応、「スターリン批判」の波紋と北朝鮮指導部の混乱、いわゆる「8月宗派事件」から中ソによる北朝鮮の内政介入経緯、金日成が個人独裁政権を樹立する過程、そして1960年代に開始される北朝鮮の核開発問題など多種多様な問題に関する第一次資料を獲得できた。これら資料の購入と合わせてセンターの所蔵にかかる資料の全容を把握できたことにより2012年度からの資料収集に展望を得た。

(2) 次年度の2012年度はセンターから「毛沢東同志、毎朝閲覧の『内部参考』」を購入、前年度に購入済みのロシア資料と合わせて、本研究課題である北朝鮮関連海外所蔵資料として調査、分析、整理を進めた。この過程で2011年度と同様に、北京から金東吉氏が5月、7月、1月に来日、本人が7月と12月に北京とソウルにそれぞれ飛んで、共同研究を推進した。12月のソウル訪問では12月19日に投票された韓国大統領選挙についても、共同して現地で調査もした。

この結果、本研究の対象である北朝鮮資料の約55%を入手したので、これを調査して10～20個のテーマ別に資料群として整理、各資料群に解題と参考資料（関連の論文、論評な

ど)を付けて編集する方針を立て、この方針の下で翻訳作業を開始した。最終年度の2013年度にも新資料を入手する予定であるが、一旦は本年度までの資料を中心として、新資料は追加的に編纂する形で作業を進めた。

具体的には、次のようなテーマで資料群を整理した。朝鮮労働党内の粛清過程(1953~1958年)、朝鮮戦争後の経済復興(1953~1955年)、第1次5ヵ年経済計画(1956~1960年)、8月宗派事件(~1956年)、

中国人民志願軍の撤収(~1958年)、在日朝鮮人帰還事業(~1959年)、核開発開始の経緯(1960年~)、4.19政変と北朝鮮の対応(1959~1961年)。このように作業を推進しながら、例えば、 、 に関しては後述する5.に示したとおり、先行して核心的な要点を書籍や論文にまとめ、その一部は既に刊行した。

(3)最終年度の2013年度は、センターから購入した新しいロシア資料を調査、分析すると同時に、これを含む既存の収集資料を整理し、本課題研究の目的である北朝鮮関連資料の出版に向けて編集から翻訳作業へ進んだ。

具体的には、金東吉氏と協議の上、『北朝鮮関連重要資料集』(仮書名、以下「資料集」と略記)を3巻に分けて年度毎に出版する計画を立てた。第1巻は1953~56年を扱い、朝鮮停戦後の経済復興(経済分野)+朝鮮労働党内の粛清過程(政治分野)をテーマとして編集することとし、両分野の重要資料を選定して協会に翻訳を依頼した。現在この重要資料を協会で翻訳した段階で、今後これら資料に解題を施し、資料集へ編纂する。

資料集第2巻には1956~60年を扱い、第1次5ヵ年計画(経済分野)+8月宗派事件と中ソの共同内政介入ならびに中国人民志願軍の撤収(政治外交分野)をテーマとする。そして資料集第3巻では第2巻と同時期を、在日朝鮮人帰還事業(政治経済外交分野)+4.19政変と核開発開始(軍事分野)をテーマとすることに定めた。

資料集の出版については、既に社会評論社から快諾を得ているので、本年11月に科学研究費補助金研究成果公開促進費(出版助成)に申請できるよう第1巻の編纂を終える。解題を付すと共に、関連するハンガリー資料や日本資料も取り入れて、北朝鮮の実像を描き出せる従来にない資料集へ完成させる。

なお、2013年度当初に予定していたハンガリー資料の刊行に関しては、昨年4月に韓国で翻訳版が出版され、この邦訳書を改めて世に出す意義は薄れた。既に邦訳は終わっているが、資料集の編纂と刊行を優先して行い、余力の出る来年度以降に回すのが妥当と思われるので、重要な資料だけを資料集に掲載して刊行に代える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件、うち投稿中1件)

Yoshinobu MORI, Study on the Background of Decision on the Withdrawal of the Chinese People's Volunteer Army from North Korea in 1956, *Chinese Historical Review*, page unknown, forthcoming, 2014

森 善宣、在日朝鮮人帰還事業の政治算術：新資料が明かす日朝各政府の政治経済的な狙い、九州地区国立大学教育系・文系研究論文集、査読有、第1巻2号(通巻13号)2014、1-14、<https://nuk.repo.nii.ac.jp/>

森 善宣、遺訓統治の虚実：金正恩≠金日成、サイト「ちきゅう座」時代をみる、2013年12月19日、<http://chikyuzo.net/archives/41379>、査読無

森 善宣、南北朝鮮の「和解と協力」は北朝鮮を変えるか?：平壤の「戦勝60周年記念事業」と開城工業団地入居企業の取材で分かったこと、サイト「ちきゅう座」時代をみる、2013年8月23日、<http://chikyuzo.net/archives/37710>、査読無

森 善宣、独裁者の娘 vs.独裁者の孫：どこまで日本植民地支配の因果はめぐるか、サイト「ちきゅう座」時代をみる、2013年1月14日、<http://chikyuzo.net/n/archives/30057>、査読無

森 善宣、「独裁の貧困」から「貧困の独裁者」へ：「弱衰小国」へ転落する北朝鮮に行く」、サイト「ちきゅう座」時代をみる、2012年5月22日、<http://chikyuzo.net/n/archives/23103>、査読無

森 善宣、「強盛大国の大門を開く」のは中国：行きはよいよい、帰りは怖い北朝鮮情勢、サイト「ちきゅう座」時代をみる、2011年8月28日、<http://chikyuzo/n/archives/13120>、査読無

[学会発表](計2件)

森 善宣、粛清と独裁：北朝鮮における「三代世襲」の起源とその政治的属性(韓国語)、韓国立慶尚大学校北朝鮮問題フォーラム、2011年11月9日、韓国晋州、慶尚大学校

森 善宣、韓日中朝の政治ならびに経済関係：中国を中心とする相互依存の増大(韓国語)、2011年度第5期「慶南西部地域労使政パートナーシップ・アカデミー」国際シンポジウム、2011年11月10日、韓国晋州、アジア・レイクサイドホテル

〔図書〕(計 1件)

- 森 善宣 他、肅清と独裁：北朝鮮における「三代世襲」の起源とその政治的屬性、東アジア学会政治部会編『東アジア研究』増刊号「北東アジアにおける平和と共生」、査読有、第1巻、2012、1 - 44、ISSN : 2185-5501

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

森 善宣 (MORI, Yoshinobu)
佐賀大学・文化教育学部・准教授
研究者番号：80270156

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

研究協力者

金 東吉 (KIM, Dong-gil)
北京大学・歴史学系・副教授
研究者番号：なし

朴 鍾哲 (PARK, Jhong-chol)

慶尚大学校・大学院社会教育学科・助教授
研究者番号：なし